

2008年 8月29日

ドクターヘリ運航事業の緊急課題

1. <現行補助金では到底賄いきれない運航経費>

現行補助金の積算根拠とされているドクターヘリの出動回数は、年間240回とされていますが、昨年度の平均出動回数は472回（年度途中運航開始された埼玉・福島・大阪を除く11病院）、最も多い静岡県西部では702回を記録しており、補助金の積算想定から大きく乖離しています。

原油価格の高騰に伴いまして、航空燃料費も嵩んでおり、飛ばば飛ぶ程赤字が増える状況です。

ヘリコプターの購入価格や部品費も高騰しており、新たなドクターヘリ配備箇所に対応する為の設備投資も現行補助金では困難です。

現状が続く限り、ドクターヘリ運航は、各運航会社の経営を圧迫し続け、事業を維持する事さえ困難となります。又、今後ドクターヘリ事業に新たに参画しようとする運航会社は、現行の収支が改善されない限り、本事業への参入を躊躇せざるを得ません。

2. <ドクターヘリの安全は、航空運送事業の厳格な基準により確保>

ドクターヘリの運航は、航空運送事業の旅客輸送に該当する事から、極めて厳格な運航及び整備基準が適用されます。

累計2万回を超える出動をこれまで無事故で遂行出来た事は、安全に関わる基準を遵守するのは当然の事、更に関係各処の協力と理解があったからこそと深謝します。

今後も高い安全品質を維持していく為には、継続した人材確保と育成、安全管理及び技術／品質管理の体制強化が必要であり、その為の経費を確保しなければなりません。

ドクターヘリの安全運航を継続する為、運航会社はこれら表面には現れない経費と時間も費やしている事をご理解下さい。

3. <ドクターヘリの事業環境の改善へ>

前述の通り、このままでは事業の継続すら困難な状況となります。

運航会社としても、可能な限りの経費削減に努めているものの、現状は企業努力の範疇を超えており、運航と安全の品質を維持、向上させる為にも、必要な経費が補填できる事業環境が早急に整えられるよう、ご尽力をお願いします。

以上

全国ドクターヘリ 運航実績概観

※ 右の平均値は、運航開始初年度の場所を除いている。

	平均 出動回数	平均 総飛行時間	JETA-1単価 (含:燃料税)	使用予測 燃料量(%)	燃油費(円) (税込)
2000年度(試行)	234.0	#REF!	¥116.6	27992.3	¥3,427,091
2001年度	360.0	#REF!	¥127.8	52273.9	¥7,014,630
2002年度	393.8	#REF!	¥121.3	55076.2	¥7,014,783
2003年度	413.3	#REF!	¥125.5	51725.8	¥6,816,162
2004年度	435.9	#REF!	¥128.0	54757.8	¥7,359,448
2005年度	434.2	#REF!	¥146.0	54466.3	¥8,349,678
2006年度	433.8	#REF!	¥164.2	53161.3	¥9,165,533
2007年度	472.2	#REF!	¥163.2	57232.9	¥9,807,423
2008年度(見込み)	480.0	#REF!	¥178.9	57420.0	¥10,786,060

ドクターヘリ新規購入価格 (円建て)		
EC135	MD902	BK117C2
3.0億円	4.5億円	5.5億円
200%	144%	127%
6.0億円	6.5億円	7.0億円

